

5 インフルエンザ流行に備えた医療検査体制等の方向性

国の方針等を踏まえ、季節性インフルエンザの流行に備えた医療検査体制等の課題について検討を進める。

①相談・受診体制

- ・ 身近な医療機関において、相談・受診できる体制の整備

②検査体制

- ・ 検査可能な診療所・病院の拡充、抗原検査キットの活用

③入院措置見直しを踏まえた医療提供体制

- ・ 受診・検査や重症患者受入等、医療機関の役割の明確化
- ・ 施設・自宅療養の運用の見直し

④保健所体制

- ・ 積極的疫学調査や濃厚接触者への対応
- ・ 自宅療養者に対するフォローアップ体制

【参考】 医療検査提供体制の状況

<検査体制>

- 唾液検査のできる診療所
280箇所(8月末)⇒ 408箇所(9月末現在)
【目標:9月末 400箇所】
- 帰国者・接触者外来
46箇所(8月末)⇒ 52箇所(9月末現在)
【目標:9月末 50箇所】

<医療提供体制>

- 受入病床
515床(8月末)⇒ 530床(9月末現在)
(うち重症86床) (うち重症86床)
- 新型コロナ感染症の疑いのある方が検査結果が出るまで入院できる「協力医療機関」
10病院 25床(9月末現在)
【目標:9月末 15病院 20床】